

平成 25 年 3 月 30 日

「父母について」

西東京地区本部 浜田山支部
丸山 和奏

ぼくは、年長さんで空手をやり始めました。はじめてき本 3 本目までできた時です。ぼくは、もうすぐし合なのにこれでいいのかなと思いました。そして、し合いのレベルは、これぐらいなのかなと思い、もっと練習しようと思いました。その時、教えてくれたのは、お父さんでした。お父さんは、ぼくに、心から一生けん命教えてくれました。ぼくは、お父さんの気持ちにこたえるため、そして、勝つために、し合いに出ました。そして、し合が始まった時ぼくの心ぞうがドクンとしました。でも、リラックスして今まで教わった通りやりました。そしてぼくは、8 人にえらばれました。その時心の中で「お父さんありがとう。」と思いました。でも、まだ、し合いは終わっていません。気をゆるめないでがんばりました。そして、はじめてのし合い、かたでゆうしょうしました。でも、お父さんは、病気になってしまいました。その時、ぼくは、心からなきました。今まで、おこられたり、ほめられて、うまくなってきましたが、もう、ここで終わりかと思いました。でも、お母さんがつれていってくれました。そしてぼくは、空手にお父さんがいなくてもがんばりました。今までお父さんお母さんありがとうございました。これからも、よろしくおねがいします。ぼくの目ひょうは、しょだんに受かることです。よろしくおねがいします。